

【団長挨拶】

本日は「港北区民交響楽団室内楽コンサートVol.3」において下さり誠にありがとうございます。昨年夏より開始されましたこのコンサートも今回で3回目を迎え、演奏の担い手である団員ばかりでなくお聴きになって頂くお客様にもお馴染みのコンサートになって参りました。今回も前回同様団員20数名による演奏で、プログラムも古典ものあり近代ものありゲーム音楽ありとたいへん多彩なものとなりました。

どうか最後までごゆっくりお過ごしください。 港北区民響楽団 団長 富山辰夫

【プログラム内容】

■ ハイドン：弦楽四重奏曲第39番ハ長調Op33-3「鳥」

＜＜メンバー紹介＞＞

港北区民交響メンバーで継続的に活動を続けている弦楽四重奏団です。

田中真紀子、渡部智子(Vn) 堀井正明(Vla) 富山辰夫(Vc)

＜＜曲目紹介＞＞

生涯に80曲以上の弦楽四重奏曲（その内15曲ほどは偽作とされています）を作曲したハイドンですが、この第39番は1781年当時のロシア大公に献呈された”ロシア四重奏曲”全6曲の中で3番目に作曲されました。第1楽章の第2主題の旋律が鳥のさえずりを思わせるところからしばしば『鳥』という名で呼ばれています。

この『鳥』を含む”ロシア四重奏曲”はハイドンの数ある弦楽四重奏曲の中でも特に重要な作品で、これらの曲の完成度の高さに感銘したモーツァルトは2年あまりかけてハイドンセットと呼ばれる弦楽四重奏曲の力作6曲をハイドンに献呈しています。

古典派以降多くの弦楽四重奏曲の源流がこの6曲であるという点で音楽史的にも重要な作品と言えます。殊にこの『鳥』はその中でも一番有名な曲と言えましょう。

第1楽章：アレグロ モデラート

第2楽章：スケルツォ（アレグレット）

第3楽章：アダージョ マ・ノン・トロppo

第4楽章：ロンド（プレスト）

■ チェロアンサンブル

＜＜メンバー紹介＞＞

港北区民響チェロパートのアンサンブル好き7人が集まりました。

富山辰夫、原田博美、田村邦夫、陣岡啓子、河本計三、平松龍文、三毛ふみの(Vc)

＜＜曲目紹介＞＞

夢のあとに(ソロ+チェロ4声)を除き、チェロ4声の曲を7人で演奏します。アヴェマリアのみチェロ重奏がオリジナルで、他の曲は編曲されたものです。

① ヴィルヘルム・フィッツェンハーゲン / アヴェマリア ヴィルヘルム・フィッツェンハーゲン(1848~1890)はドイツのチェリストで、モスクワ音楽院で教授職を務め、チャイコフスキーから《ロココの主題による変奏曲》を献呈されたこと(およびこの作品を作曲家に無断で改竄し、今日でもその版で演奏されることが多いこと)でも名高いです。

② カザルス / 鳥の歌 カザルス94歳のときにニューヨーク国連本部において「私の生まれ故郷カタロニアの鳥は、ピース、ピース(英語の平和)と鳴くのです」と語り、この曲をチェロ演奏したエピソードは伝説的で、録音が残されています。

③ フォーレ / 夢のあとに 歌曲集『3つの歌』Op.7の第1曲です。様々な編曲で演奏されますが、中でも、チェロ編曲版は有名です。

④ ヨハン・シュトラウス / ピッチカートポルカ ヨハン・シュトラウス2世と弟のヨーゼフ・シュトラウスが合作したポルカです。弓は使わず、弦を指ではじいて演奏します。

⑤ モーツァルト / アベラムコルプス 簡素な編成でわずか46小節の小品ですが、絶妙な転調による静謐な雰囲気から、モーツァルト晩年の傑作とされます。



■ 弦楽四重奏による「ドラゴンクエスト」序曲ほか

＜＜メンバー紹介＞＞

ゲーム曲の演奏に快く応じてくれた即席メンバーです。

笹原伸雄、田中誠二(Vn)、野内 勝(Vla)、河本計三(Vc)

＜＜曲目紹介＞＞

今回のゲーム曲は当室内楽演奏会で初めてのジャンルなので、聞き手の評価が気になるところです。演奏メンバーにはドラクエゲームをしたことがない人もいます

第1曲 序曲：ドラクエといえはまずこのメロディーですね。

第2曲 街の人々：主人公が街に立ち寄って骨休めします

第3曲 LoveSong探して：All Pizz(ピッチカート)の軽い曲です。

第4曲 冒険の旅：今回締めめの曲に選びました。

第1、第4曲は当楽団員の砂田俊彦が弦楽四重奏に編曲しました。

■シューベルト：弦楽三重奏曲第一番D471 変ロ長調

＜＜メンバー紹介＞＞

私たち3人は、何年前から室内楽をそれぞれに、あるいは一緒に演奏しています。
今回はこの3人組ができました。 滝口 修(Vn)、阪田貞一(Vla)、田村邦夫(Vc)

＜＜曲目紹介＞＞

未完の一楽章のみの作品。補助教員をやめて、作曲に専念するようになった1816年(19歳)のときの作品で、モーツァルト、ベートーベンに似たところがありますが、シューベルトの特徴である親密さ、やさしさ、誠実さいっぱいの曲です。それ故か、日本人はとてもシューベルトが好きです。世界ナンバーワンでしょう。

■ヤナーチェク：管楽六重奏のための組曲 <青春>

＜＜メンバー紹介＞＞

アンサンブル合宿から生まれた「とんがり木管五重奏団」。今回はバスクラリネットに都内アマ楽団で活躍する名手を迎え、六重奏に取り組みました。いつもより重厚な低音をお楽しみください。
大槻郷子(Fl)、水橋恵津子(Ob)、大貫京子(Cl)、
松本由佳子(Fg)、前澤磨澄(BCl)、千田理路(Hr)

＜＜曲目紹介＞＞

「青春」はレオシュ・ヤナーチェクが1924年に作曲したもので、ヤナーチェク最晩年の傑作といわれています。当時ヤナーチェクは70歳、38歳年下の女性に恋をして600通以上ものラブレターを送ったというエピソードが残されています。

そんな老いらくの恋を反映して(?)か、とても若々しくフレッシュな曲なのですが、なにしろ記譜が非常に実験的!! 普段見慣れない表記にみんな四苦八苦です。

第1楽章 Allegro ロンド風の自由な形式、陰影がありながらも牧歌的な音楽。難易度の高いホルンソロが2カ所、本番は決まるか?

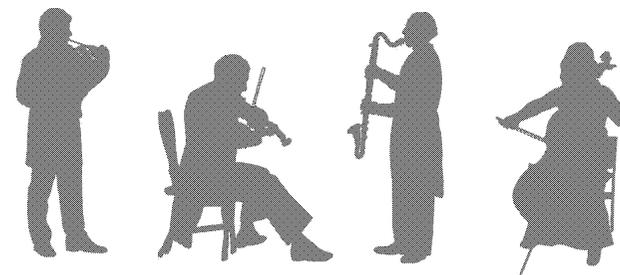
第2楽章 Andante sostenuto 低音から始まるスラヴ的な主題と4つの変奏の緩徐楽章。折々に下行音階(16分の17拍子!)の楽句が挿入されるがこれがムズカシイ!!

第3楽章 Vivace 2拍子のスケルツォ。主題はピッコロによるバーレスク調であるが、トリルの多用や伴奏の8分音符などで諧謔的な風味をプラスしている。

トリオは一転オーボエの美しいメロディーが奏され、その後また主題が再現される。

第4楽章 Allegro animato 冒頭部分は第1楽章の主題を変形させたもの。各所に前の楽章を想起させるメロディーがちりばめられ、加速度的にテンポが速くなっていき、ついにクライマックスを迎える。指が回らないよう〜!!

港北区民交響楽団 室内楽コンサート Vol.3



～ プログラム ～

ハイドン：弦楽四重奏曲第39番ハ長調Op33-3「鳥」
チェロアンサンブル ヴィルヘルム・フィッツェンハーゲン：アヴェマリア他
弦楽四重奏による 「ドラゴンクエスト」序曲ほか
シューベルト：弦楽三重奏曲第一番D471 変ロ長調
ヤナーチェク：管楽六重奏のための組曲<青春>

2012年7月8日(日) 14:00 開演
於 横浜市大倉山記念館 ホール

主催：港北区民交響楽団
共催：横浜市大倉山記念館

港北区民交響楽団 今後の公演のご案内
第51回定期演奏会 2013年1月20日(日) 神奈川県民ホール
三原明人指揮 ブラームス交響曲第4番 他